

児童館等における「遊びのプログラム」の開発・普及に係る調査研究業務 報告書概要（案）

実施主体：一般財団法人 児童健全育成推進財団

優れた「遊びのプログラム」を調査・収集し、その健全育成上の効果等を分析して「児童館等における遊びのプログラムマニュアル」を作成した。

実施体制

企画・検討委員（50音順）

安部 芳絵（工学院大学 准教授）
植木 信一（新潟県立大学 人間生活学部子ども学科 教授）
阪野 大介（愛知県児童総合センター 主査）
柳澤 邦夫（栃木県上三川町立上三川小学校 校長）

事務局

鈴木 一光（児童健全育成推進財団 理事長）
野澤 秀之（ ” 事業部 部長）
尾崎 豊（ ” 総務部 課長）
岩網 良（ ” 事業部 課長補佐）

1. 企画・検討委員会の開催

本事業の実施に際しては、有識者による企画・検討委員会を設置し、専門的助言を受けた。

（1）設置期間と開催回数

第1回	平成29年6月2日（金）	15:30～17:30	児童健全育成推進財団会議室
第2回	平成29年6月14日（水）	14:30～16:30	”
第3回	平成29年7月19日（水）	14:30～16:30	”
第4回	平成29年8月23日（水）	14:30～16:30	”
第5回	平成29年9月13日（水）	13:00～14:30	国立オリンピック記念青少年総合センター
第6回	平成29年12月5日（火）	10:00～12:00	児童健全育成推進財団会議室
第7回	平成29年12月5日（火）	13:00～15:00	”
第8回	平成29年12月15日（金）	13:00～15:00	”
第9回	平成30年3月20日（火）	16:00～18:00	”

(2) 検討内容

- ・マニュアルに掲載する「遊びのプログラム」の選定とプログラムアドバイザーの選定
- ・遊びのプログラムのカテゴリー分類
- ・モデル的に実施した「遊びのプログラム」の効果検証
- ・「遊びのプログラム」のマニュアルの作成
- ・本事業の調査研究報告書の作成

2. 遊びのプログラムの開発・普及

(1) 「遊びのプログラム」、及びプログラムアドバイザーの選定

児童館等における様々な実践プログラムの中から、優れた「遊びのプログラム」を選定し、その実践者をプログラムアドバイザーとして61名を委嘱した。マニュアルに掲載する「遊びのプログラム」は、児童館ガイドラインにおける活動内容に対応するよう以下のように整理した。

児童館ガイドラインの活動内容に合わせて実施された遊びのプログラム

(1) 遊びによる子どもの育成		
1	しまおに～異年齢での運動遊び～ 仙台市館児童センター 仙台市木町通児童館 (公財) 仙台ひと・まち交流財団	狭い児童館のホールでも異年齢が十分に身体を動かして楽しめる。子どもたちが主体的に楽しく取り組める。
2	Sケン～異年齢での運動遊び～ 仙台市館児童センター 仙台市木町通児童館 (公財) 仙台ひと・まち交流財団	チーム対抗で夢中になって遊べる伝承遊び「Sケン」。子どもたちが主体的に楽しく取り組める運動遊び。
3	どんぐりマーケット 神戸市六甲道児童館	どんぐり等の木の実を貨幣に見立て、来館者が出品した工作物を購入するお買い物ごっこ。木の実は珍しいものほど価値が高い。身近な自然を発見し、近隣の山などを訪れ様々な木の実に興味をもつきっかけともなる。
4	JBC(じどうかんベースボールクラシック)～児童館版リアル野球盤～ 台東区松が谷児童館	段ボールで作ったリアルサイズの野球盤。スロープから転がしたボールを子どもたちがゴルフのように打つ。
5	あおむけビーチボールサッカー 台東区松が谷児童館	身近なサッカーを誰でも楽しめるようにアレンジし、苦手な子どもでも親しみやすくなる。
6	忍者遊びでにんにん！修行 ～五感を使った野遊び～ 新潟県立こども自然王国	身近な自然の中で、忍者となり、目や鼻など五感を使った修行(遊び)を通して生き物や植物の面白さや不思議にふれ、野外で遊ぶきっかけを作る。季節の自然素材を使いながら想像力を育み、表現の楽しさを発見する。
7	小麦粉ねんどの町づくり 札幌市東雁来児童会館	ブルーシートの上に小麦粉粘土で思い思いに道や建物などを作っていき、参加者同士が交流しつつ「まち」として発展させていく。プログラムを通じて、小学生と乳幼児、及びその親との交流も狙う。
8	児童館からの脱出ゲーム 愛知県児童総合センター	館全体を使った謎解き脱出ゲーム。ストーリーの中で謎解きをしていくことで、緊張感やグループでの達成感を感じ、また想像力を働かせながら遊ぶ体験となる。仲間づくりや父親の子育て参加促進のためのプログラムとして展開している。

9	ジブンの処方箋 愛知県児童総合センター	ビーズやどんぐりで薬をつくる→薬の名前や効能などを自分で書き込み処方箋を書く(タノシクナルA等)→薬と処方箋を薬袋にいれて、もらって帰る。遊びをとおして自分の気持ちを整理したり、伝えることで、自分を見つめなおす。
10	コマ相撲夏場所 品川区大原児童センター 品川区北品川児童センター	コマを力士に見立てて、土俵を模したコマ床の上で誰かと長生き勝負をし、「星取表」に金星を増やしていく。「星取表」には「序二段」から「横綱」まで10ケのマス目が描かれている。「横綱」まで昇進したら「星取表」の裏に「手形スタンプ」と「しこ名のサイン」を書き、開催期間中児童館内に掲示することができる。
(2) 子どもの居場所の提供		
11	子ども自由ラジオ いわて子どもの森	子どもたちのコミュニケーション能力育成を目指して開局した自由ラジオ局。高校生ボランティアと職員がサポートしつつ、企画、取材、台本作り、BGM選び、ナレーション、CM作りと、すべての過程を子ども主体で取り組む。
12	中高生向けアウトドアお泊り会 練馬区平和台児童館	児童館でお泊り会をしたいという希望に応えるため、「キャンプ」を実施すると共に、自然体験活動へ誘う機会とする。
13	中高生タイムスペシャル ～児童館でも食事支援、学習支援をしよう～ 杉並区善福寺児童館	中高生の居場所作りや自立支援を目的として、従来の「中高生タイム」を時間延長して学習支援や食事支援を行う。中高生が主体的に取り組めるよう、クッキングやレクリエーション等、中高生自身の企画も盛り込む。
14	居場所のための環境づくり ～室内環境編～ NIKONIKO館	児童館を子どもにとって居心地のいい、行ってみたい場所にするために『おもてなしの心』や『コミュニケーション』を意識しながら工夫し、ハッピーオーラのある場所に整えていく。
15	居場所のための環境づくり ～出会い編～ NIKONIKO館	児童館で、地域と出会える場を提供し、さりげないサポートの中で、個々が活躍できるように地域と共に連携する。
(3) 保護者の子育ての支援		
16	イクメン応援プログラム ～お父さんを楽しもう！～ 愛知県児童総合センター	クッキング、スポーツ、ボードゲーム、立体工作など父親が子どもとともに参加し、存分にに関わりあい、父親ならではの力を発揮して楽しめるプログラムをシリーズで実施する。父親の仲間作りを進めるとともに、主体性を引き出すことを目的とする。
17	赤ちゃんハイハイレース 松山市北条児童センター 松山市南部児童センター 松山市久枝児童館	子育てを始めたばかりの親たちに児童館を知ってもらうことを目的として実施する。集まった親たちには、子育てに関連する様々な情報もお伝えする。
18	小学生と乳幼児親子とのふれあい 戸塚児童センターあすぱる	子どもたちは命の大切さを知り、自分も親から愛されたことを振り返る。親は自分の育児を語ることで、改めて我が子に対する愛着を深める。
19	「セルフタイマーで撮る 『家族のうれしい顔』写真」 愛知県児童総合センター	セルフタイマーを使って家族で写真を撮るコーナーを用意しておく。ポーズを考えたりタイマーがうまく作動せず手間取ったりしながら、にぎやかに写真を撮ること自体を楽しんでもらう。家族で来館するきっかけになり、写真展にすれば再度来館してもらうきっかけにもなる。
20	愛着を育てる「人育ち唄」 子ども家庭リソースセンター	日本に伝わる赤ちゃんのあやし唄をベースとした、0歳の愛着形成を促すためのかわり遊び。小中高生が赤ちゃんに触れ合い、交流するツールとしても有効な、都内児童館で人気のプログラム。
21	キッズクラブ ～母親同士の子どもの預けあいサポート～ 神戸市落合児童館 神戸市須磨区社会福祉協議会	親同士が交代で子どもを世話、預かりあいをする。安心して子どもと分離し、リフレッシュの機会を設け、育児ストレスの解消と子育て力の向上を目指す。

(4) 子どもが意見を述べる場の提供		
22	とり+かえっこ屋 草加市氷川児童センター 練馬区立平和台児童館	使わなくなったおもちゃの交換をメインにした「子どものまち」遊び。大型児童館では1日のイベントだったが、小型児童館では1週間継続して実施する。遊びながら、経済の仕組みや労働の意味を学ぶことができる。
23	めざせ！6秒動画100連発 ～ビデオムービーづくり～ 港区麻布子ども中高生プラザ	子どもたちの意向に沿ってスタッフが館のビデオカメラで撮影する。6秒に編集し、100本集まるまで館内のテレビモニターで流す。100本集まったら締め切り、投票でグランプリを決める。
24	中高生が教える科学実験	葉脈標本作りや、カルメ焼き作りなど、中高生が主体的に科学プログラムを企画し、小学生に向けて実施する。小学生・中学生・高校生のいい交流の機会ともなっている。
25	おいしいよ農園～会社経営ごっこ～ 金沢市浅野町児童館	「おいしいよ農園」という会社を設立し、様々な企画を子ども達が考えて取り組む。社長、副社長、専務などの役職も子ども達が担う。野菜や米作りから商品化、販売までの一連の活動や町内の文化祭で販売したり児童館で収穫祭を行ったりする。
(5) 地域の健全育成の環境づくり		
26	TV番組撮影クルー体験 ～撮影ごっこをしてみよう～ 福岡市中央児童会館あいくる	地元ケーブルテレビの協力を得つつ、地域を紹介する番組作りに挑戦する。子どもたち自身が、ディレクター、カメラマン、リポーターなどを担い、編集作業も行う。地元ケーブルテレビの協力を得つつ、館の活動を紹介する番組作りに挑戦する。メディアリテラシーに加えて、責任感と団結力を育む。
27	多文化交流クッキング ～「おいしい」体験は地域を繋ぐ～ 燕市小中川児童館 児童研修館「こどもの森」	外国にルーツを持つ母親に「皮から作る餃子講座」等、得意メニューで親子クッキングの講師をお願いする。それを通じて、子ども同士の仲間づくりが促進されることを狙う。
28	地域こども工房～屋外での木工作～ 台東区松が谷児童館	近隣の材木店から材料を提供してもらい、町会、青少年委員、民生児童委員など、地域の協力を得ながら児童館が近所の公園で開催する。
29	児童館・こどもシティ ～就労体験型まつり～ 八王子市中野児童館 八王子市北野児童館 八王子市元八王子児童館	子どもによる子どものための「子どものまち」ごっこ遊び。綿あめ、工作、ゲーム、ハローワーク、市役所など、様々なお店で遊ぶだけでなく、子ども自身がホスト役になって働く。
30	地域ほっと・カフェ NIKONIKO館	児童館のひと部屋を地域カフェにすることで、すべての人が気軽に集える居場所となる。また、そこで出会った人がお互いに刺激しあい、元気をもらい、大切にできるようになる。
(6) ボランティアの育成と活動		
31	おかえり！児童館 ～同窓会でボランティア発掘～ 松山市北条児童センター 松山市南部児童センター 松山市久枝児童館	かつて児童館を利用していた大学生世代に「同窓会」と称して集ってもらい、旧交を温めつつ、児童館での主体的なボランティア活動へつなげる。
32	じどうかん遊び塾 ～地域クリーン作戦～ フレンドリープラザ墨田児童会館	3～6年生の組織活動。毎週一回の登録している児童の定例活動。ボール遊びやレクリエーション、ボランティア活動等幅広い活動を行う。その中でも月に一回クリーン作戦と称して地域の公園等のゴミ拾い活動を行う。
33	こどもヘルパー活動 神戸市落合児童館 神戸市須磨区社会福祉協議会	高学年児童のボランティア活動の第一歩、児童館とその周辺の地域の施設を拠点に子どもたち自身が考えて、児童館行事の参画や異世代交流、募金や防災活動、報告会を行う取組。

(7) 放課後児童クラブの実施		
34	ハロウィンパーティー 仙台市岩切児童館	仮装遊び。放課後児童クラブ登録児童と自由来館児童とが分け隔てなく参加でき、やがて児童館を支える子どもボランティアの一員としても育てるプログラム。
35	新春おまつり遊び 仙台市岩切児童館	児童クラブの子どもが中心となり、自由来館児童、地域が分け隔てなく遊ぶプログラム。生活とともにあった民族芸能や和の音に出会い新春の喜びを皆で祝う。
(8) 配慮を必要とする子どもの対応		
36	じどうかん子ども食堂 ～みんなで食べるとおいしいね～ 松本市寿台児童館 ワーカーズコープ松本事業所	貧困対策と同時に子どもたちの自立支援を目指して、大人と子どもと一緒に料理して食べる「食堂」イベント。余った食材を集めて有効利用するフードドライブや、子どもたち自身によるお弁当クッキング等、食育に関連するプログラムも実施する。
37	障がいのある子を持つ親の会 うるま市みどり町児童センター うるま市いしかわ児童館 うるま市屋慶名児童館	子どもの発達のこと、困っていること、気になること、気軽におしゃべりができる場をもうける。その他、障がいのある子の家庭支援を多く行う。
その他、地域の実情に応じた先駆的な取組		
38	防災段ボールキャンプ 神戸市六甲道児童館	防災意識の向上を目的に、段ボールで家を作って児童館等で1泊する。宿泊（緊急避難）の持ち物は子どもが自分で考えて準備する。当日それをみんなで確認し、危機管理について学びあい、相互に防災意識を高めあう。
39	スタッフによる「自分の世界」企画 港区麻布子ども中高生プラザ	夏の間、週1回、職員が持ち回りでプログラムを企画・実施する。各職員の専門性や個性が最大限にされた「人に着目したプログラム」となるために、テーマや対象は自由。

(2) 「児童館・遊びのマルシェ」の開催

「遊びのプログラム」の波及と、マニュアルそのもののブラッシュアップを目的として「児童館・遊びのマルシェ」を開催した。当日はパイロット版（試作）マニュアルを配布し、プログラムアドバイザーが直接ブースでの説明や体験ワークショップを行った、全国の児童館から募集し、250名の参加があった。

また、前日にはプログラムアドバイザーを召集した事業説明会を開き、本事業の趣旨を理解していただいた。

- ▶ 期日：平成29年9月13日（水）10時00分～16時30分
- ▶ 会場：国立オリンピック記念 青少年総合センター 国際会議室、他

(3) 「児童館・遊びのミニマルシェ」の開催

「遊びのプログラム」の更なる普及促進を図るため、厚生労働省委託事業である平成29年度 全国子どもの健全育成リーダー養成セミナー開催時に、ホワイエでのパネル展示、情報交換会でのアドバイザーによるプレゼンテーションを行った。プログラムアドバイザーの児童館から18団体が参加し、305名が来場した。

- ▶ 期日：平成30年1月20日（土）12時30分～翌21日（日）13時
- ▶ 会場：東京国際交流館プラザ平成 ホワイエ

(4)「遊びのプログラム」の実施効果の検証

①「遊びのプログラム」の評価

「児童館・遊びのマルシェ」を開催時、各企画・検討委員がすべてのプログラムを視察し、評価を行った。その際の評価項目は下記の通り。

- ・子どもの成長・発達に資するプログラムか。
- ・各地の児童館で実現可能性が高いプログラムか。
- ・地域を巻き込んで展開するなど、児童館ならではのプログラムか。
- ・子どもたちの興味関心を引きつける、おもしろいプログラムか。
- ・子どもの参画度の高いプログラムか。

同日に第5回の企画・検討委員会を開催。評価の共有、改善点の検討を行った。その際討議された改善点はマニュアルの内容に反映した。また、評価項目も再検討し、マニュアルにレーダーチャートとして反映した。評価項目は報告書にて解説する。

- ▶ 第6回 企画・検討委員会
- ▶ 議題：各プログラムの評価について
- ▶ 期日：平成29年9月13日（水）13時～14時00分
- ▶ 会場：国立オリンピック記念 青少年総合センター 会議室

②プログラムの試行（トライアル）

「遊びのマルシェ」で紹介したプログラムを年内に試行的に実施するトライアル児童館を公募した。

トライアル児童館は、パイロット版マニュアルを参考にプログラムを実施、マニュアルの精度を高めるために改善点等のフィードバックを行った。

また、各プログラムアドバイザーは、実施に向け、直接トライアル児童館を訪問し、企画会議への出席や、当日の運営支援など、実施までのサポートを行った。

遊びのプログラム トライアル実施児童館一覧

プログラム名	トライアル児童館
しまおに～異年齢での運動遊び～	・にこにこ浜っ子クラブ（岩手県大船渡市）
どんぐりマーケット	・西日暮里二丁目ひろば館（荒川区） ・児童研修館「こどもの森」（新潟県燕市）
防災段ボールキャンプ	・KFJすかいきっず（川崎市） ・寿台児童館（長野県松本市）
JBC（じどうかんベースボールクラシック）～児童館版リアル野球盤～	・戸塚児童センターあすばる（埼玉県川口市） ・岩切児童館（仙台市）
あおむけビーチボールサッカー	・久留米市児童センター（福岡県） ・日の出町志茂町児童館（東京都）
忍者遊びでにんにん！修行～五感を使った野遊び～	・県立いわて子どもの森（岩手県一戸町）
小麦粉粘土のまち作り	・鶴巻児童館（仙台市）

児童館からの脱出ゲーム	・南大谷児童館（東京都八王子市） ・みどり町児童センター（沖縄県うるま市）
ジブンの処方箋	・にこにこ浜っ子クラブ（岩手県大船渡市） ・日の出町志茂町児童館（東京都）
イクメン応援プログラム ～お父さんを楽しもう！～	・善福寺児童館（杉並区） ・浅野町児童館（石川県金沢市）
「家族のうれしい顔」写真	・六甲道児童館（神戸市） ・小中川児童館（新潟県燕市）
コマ相撲夏場所	・岩切児童館（仙台市） ・善福寺児童館（杉並区）
子ども自由ラジオ	・氷川児童センター（埼玉県草加市） ・落合児童館（神戸市）
中高生向けアウトドアお泊り会	・中央児童センター（愛媛県松山市）
中高生タイムスペシャル～児童館でも 食事支援、学習支援をしよう～	・北条児童センター（愛媛県松山市）
赤ちゃんハイハイレース	・志津児童センター（千葉県佐倉市） ・花の木ひろば館（荒川区）
おかえり！児童館 ～同窓会でボランティア発掘～	・京ヶ瀬児童館（新潟県阿賀野市）
愛着を育てる「人育ち唄」	・志津児童センター（千葉県佐倉市）
児童館遊び塾～地域クリーン作戦～	・KFJすかいきつず（川崎市）
めざせ！6秒動画100連発 ～ビデオムービーづくり～	・野川こども文化センター（川崎市） ・宇福寺児童館（愛知県北名古屋市）
スタッフによる「自分の世界」企画	・高田馬場第一児童館（新宿区）
児童館・こどもシティ ～就労体験型まつり～	・飯島南児童センター（秋田市）
中高生が教える科学実験	・小中川児童館（新潟県燕市） ・蒲江児童館（大分県佐伯市）
おいしいよ農園 ～会社経営ごっこ～	・三和児童館（石川県金沢市）
多文化交流クッキング ～「おいしい」体験は地域を繋ぐ～	・東部児童館（愛知県東郷町）
とり+かえっこ屋	・熊野前ひろば館（荒川区） ・京ヶ瀬児童館（新潟県阿賀野市）
TV番組撮影クルー体験 ～撮影ごっこをしてみよう～	・県立こども自然王国（新潟県柏崎市）
こどもヘルパー活動	・蒲江児童館（大分県佐伯市）
キッズクラブ～母親同士の子どもの預 けあいサポート～	・戸塚児童センターあすぱる（埼玉県川口市）
ハロウィン・パーティー	・横代児童館（北九州市）
新春おまつり遊び	・弥生児童館（大分県佐伯市） ・中野島こども文化センター（川崎市）
じどうかん子ども食堂 ～みんなで食べるとおいしいね～	・蒲江児童館（大分県佐伯市） ・浜岡中央児童館（静岡県御前崎市）
障がいのある子を持つ親の会	・堀留町児童館（中央区）
33プログラム	49か所

(5) 児童館への視察

実際の遊びのプログラムを確認するため、企画委員及び事務局担当職員が、主にプログラムアドバイザーの勤務する児童館等への視察を行った。視察したプログラムアドバイザーの児童館は以下の通り。

平成 30 年 1 月 28 日	日	松山市久枝児童館	愛媛県
		松山市北条児童センター	愛媛県
平成 30 年 1 月 31 日	水	館児童センター	仙台市
平成 30 年 2 月 2 日	金	松が谷児童館	東京都
平成 30 年 2 月 8 日	木	こどもの森	新潟県
平成 30 年 2 月 9 日	金	練馬区平和台児童館	東京都
平成 30 年 2 月 10 日	土	寿台児童館	長野県
平成 30 年 2 月 11 日	日	愛知県児童総合センター	愛知県
平成 30 年 2 月 13 日	火	福岡県中央児童会館	福岡県
平成 30 年 2 月 15 日	木	墨田児童会館	東京都
平成 30 年 2 月 16 日	金	N I K O N I K O 館	愛媛県
平成 30 年 2 月 16 日	金	金沢市浅野町児童館	石川県
平成 30 年 2 月 17 日	土	落合児童館	神戸市
平成 30 年 2 月 18 日	日	草加市氷川児童センター	埼玉県
平成 30 年 2 月 24 日	土	いわて子どもの森	岩手県
平成 30 年 2 月 25 日	日		
平成 30 年 2 月 27 日	火	六甲道児童館	神戸市
平成 30 年 2 月 28 日	水	杉並区善福寺児童館	東京都
平成 30 年 3 月 1 日	木	東雁来児童会館	札幌市
平成 30 年 3 月 2 日	金		
平成 30 年 3 月 8 日	木	みどり町児童センター	沖縄県
平成 30 年 3 月 9 日	金	N I K O N I K O 館	愛媛県
平成 30 年 3 月 11 日	日	八王子市児童館	東京都
		2 1 か所	

(6) 児童への効果の検証とマニュアルの作成

パイロット版のマニュアルとトライアル児童館からのフィードバックを参考に、一般の児童館等で遊びのプログラムを効果的に実施するためのマニュアルを作成した。

マニュアルは添付の通り（抜粋）。

「児童館等における遊びのプログラムマニュアル」 概要

プログラム数	39種類
版型	A4
ページ数	約300
公開方法	PDFデータにてインターネット上に公開

児童館等における 遊びのプログラム マニュアル



遊びのプログラムと プログラム評価

◆ 鈴木一光

一般財団法人児童健全育成推進財団 理事長
厚生労働省社会保障審議会児童部会
遊びのプログラム等に関する専門委員会 委員長

国立児童センター(こどもの城)は平成27年に閉館しました。厚生省は、児童館そのものは発展拡充を図るという趣旨で、社会保障審議会児童部会の下に「遊びのプログラムに関する専門委員会」を立ち上げました。主たる目的は、①「こどもの城」が継承してきた遊びのプログラムを精査して全国の児童館への普及浸透を図ることと、②その成果を反映して「児童館ガイドライン(平成23年発出)」の改訂版を作成することです。

こどもの城の閉館や停滞気味と伝えられている児童館の現状を憂えて振り返ったとき、私たちは直接の利用者である国民(ステークホルダー)に、「遊び」による健全育成の意味や、「遊びのプログラム」の効果などを、きちんと言語化して説明してこなかったことに思い至りました。私たちは、児童館に税金を投入してくれる関係者が納得するような説明責任(アカウントビリティ)を果たしてきたでしょうか。そこで、「遊びの実施マニュアル」の作成に当たり、児童館での遊びのプログラムの意味を確認する必要性を感じました。

児童館は児童福祉法第40条に基づく施設であり、「児童館ガイドライン」にはその理念と目的が示されています。ですから児童館が行う事業は漫然と行われるべきものではなく、全てについて意図をもって計画的に取り組むことが求められます。当財団では、この意図的・計画的なあらゆる活動を児童館におけるプログラムと定義しています。

この児童館活動ですが大きく分けると、基本的な日常活動(日常プログラム)と、目標を掲げて企画を起す活動(企画プログラム)の2通りのもになるようです。私たちは長い間、プログラムという後者の「企画プログラム」を念頭に置いて、クラブ活動や教室活動を始め、時宜に応じた児童福祉課題も対象として実践に励んできました。しかも、子どもに

社会が手間隙とお金をかけるのは自明のことであり、論証を必要とされることではないと思っているうちに福祉の世界も説明責任が求められる時代になってきていました。

「企画プログラム」は、主に「子どもの遊びから発展した多様な活動」や「子ども、保護者が主体的に取り組む体験的活動」「児童館側からの働きかけによるクラブ・教室活動」などであり、プログラムの内容によって数値化したり、記録したり、聴取り調査などによって言語化・周知化が可能です。「日常プログラム」は、主に児童館の施設機能や受付など、子どもたちの居場所としての日常的活動や運営です。日々連続と続き終わりはありませんが、主に事例(エピソード)によって記録が可能です。児童館にとっては当たり前の日常ですが、子どもの拠り所をなす重要なプログラムとして意識化する必要を感じました。

今回、本書で取り上げた遊びのプログラムは、全国の児童館において活用できるものを選定しました。加えて児童館ガイドラインに即した具体的解説集になることも目指しました。プログラム実施後には、ぜひ目的・目標と対比した評価を明確に世に問うていただけますようお願い申し上げます。



遊びのプログラムと 児童ソーシャルワーク

◆ 植木 信一

新潟県立大学人間生活学部子ども学科 教授
厚生労働省社会保障審議会児童部会
遊びのプログラム等に関する専門委員会 委員
放課後児童対策に関する専門委員会 委員
今後の地域の児童館等のあり方検討ワーキンググループ 座長
厚生労働省委託事業
児童館等における「遊びのプログラム」の開発・普及に係る調査
研究業務 企画委員長

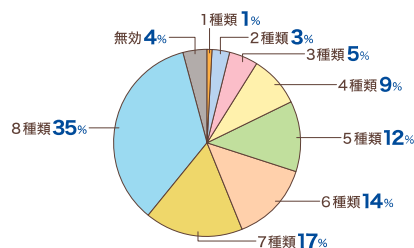
児童館ガイドラインには、①遊びによる子どもの育成、②子どもの居場所の提供、③保護者の子育て支援、④子どもが意見を述べる場の提供、⑤地域の健全育成の環境づくり、⑥ボランティアの育成と活動、⑦放課後児童クラブの実施、⑧配慮を必要とする子どもの対応、以上の8つの「児童館の活動内容」の種類が明記されています。児童館に必要とされる「児童ソーシャルワーカー」とは、これら8つの「児童館の活動内容」を遊びのプログラムに反映させるために、児童館と児童館以外の社会資源をつなぐ役割を果たす児童厚生員のことです。

平成28年度に実施した調査研究¹⁾によれば、これら児童館の活動内容の種類が多いほど、来館者が増加する児童館の割合が多くなることがわかっています〔図1〕。

つまり、多様な遊びのプログラムが、児童館来館者の増加につながるならば、児童館は、活動内容の種類をどれだけ多く遊びのプログラムに活用できるかが重要ということになります。

しかし、8種類もの活動内容を実施するためには、児童館に所属する児童厚生員だけでは物理的に不可能なことがあります。そこで、地域の社会

〔図1〕 活動内容の種類 × 来館者増加館の割合

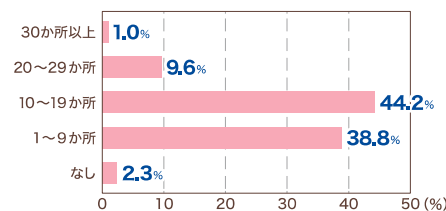


資源と連携することによって不可能を可能にすることができます。上記の調査研究によれば、連携する社会資源が10～19か所ある児童館は、来館者が増加する割合が最も多いことがわかっています〔図2〕。

1児童館における連携か所数として20か所以上は現実的な数ではなく、10～19か所は実際に連携可能な数といえます。いずれにしても、児童ソーシャルワーカーは、多様な社会資源と児童館をつなぐマネジメント能力が必要であり、利用者が求める地域ニーズを実現するために必要な社会資源を見極めることが必要です。また、児童館には、児童ソーシャルワーカーを育成する人材マネジメントが期待されています。つまり、児童厚生員は、地域のニーズを把握する調査力を身に付け、適切な社会資源との連携のために必要な児童ソーシャルワーカーとしての力量を向上させることが必要です。

児童館は、遊びのプログラムを実現するために、これらの児童ソーシャルワークが必要かどうかを8つの児童館の活動内容を活用して常にセルフチェックすることができます。結果的に、遊びのプログラムが児童館ガイドラインに基づくものであることを理解することができます。

〔図2〕 連携か所数 × 来館者増加児童館の割合



1) 厚生労働省平成28年度子ども・子育て支援推進調査研究事業「地域の児童館が果たすべき機能及び役割に関する調査研究」(主任研究員：植木信一) 2017年、N=1612(4007)

遊びのプログラムと 今の子どもたちの課題

◆ 柳澤邦夫

栃木県上三川町立上三川小学校 校長
厚生労働省社会保障審議会児童部会
今後の地域の児童館等のあり方検討ワーキンググループ 構成員
厚生労働省委託事業
児童館等における「遊びのプログラム」の開発・普及に係る調査
研究業務 企画委員

今、私は子どもが学校や家庭、そして地域でどのような生活をしているのかについて、学校という現場から見ています。そこから気付くことは、もう何年も前から言われている事ですが、「放課後、子どもたちがどこにも居ない、見ない」ということです。かつては、放課後に、学校の校庭や地域に子どもたちが自転車に乗って集まってきては、いろいろな遊びをしていました。今は、そうした光景が全く見られなくなりました。地域のお年寄りからも同じ事を言われます。今、放課後の子どもたちの多くは家の中に居たり、習い事に行ったりしています。つまり、地域や学校の校庭に子どもたちは居ないのです。こうした放課後の子ども社会がつくられた背景には、大きく二つの要因が考えられます。

一つ目は、平成16年・17年に全国で多発した小学1年生児童の下校途中の誘拐殺害事件があります。「子どもが危ない」「子どもを守ろう」「安心安全」が社会の合い言葉になった時代です。その結果、学校保健安全法も改正されたり、「学校終了後、子どもが同時刻に全員揃って集団で下校する」となったりして、地域の見守り隊の方々に見守られながら、とにかく早く家の中に帰ることが第一とされるようになりました。不審者・声かけ事件なども増え、親たちも、外に遊びに行くことを心配し、なるべく家で遊ぶようにと躰けていったこともそうです。また、ゲーム機の進化と流行は、子どもたちが家から出ないことを応援するかのよう著しく作用しました。二つ目は、学校の放課後の時間が少なくなったということです。学校での教育活動が「ゆとり教育からの転換」として学習内容や量の変化、そして英語科等の新設科目の登場により、6時間目まで授業が行われるようになり、結果、下校時刻が遅くなる日が増えたということです。

このような現代の子ども社会にあっては、児童館が提唱する「子どもの

遊びによる健全育成」の普及が難しくなっているのではないのでしょうか。子どもたちの遊びの減少は、昔言われた3間（さんま）【時間・空間・仲間】の欠如に加えて、「安全安心・教育内容増加」といったことが追い打ちを掛け、子どもたちから遊びを奪っているのが現状です。

子どもの本質は全く変わってはいません。時間と場所があり、仲間が居れば自然と遊び出しますし、みんな遊びたいと言っています。今、子どもの育ちや遊びの問題は、社会や制度、あるいは大人に起因し、またコントロールされていると言っているのではないのでしょうか。

こうした現代社会にあって、この遊びのマニュアルは、子どもたちに豊かな遊びや体験活動を提供してくれる指南書となってくれるのでしょうか。家の中に追い込まれてしまっている子どもたちを引き戻して、「こんなおもしろい遊びがあるよ、安全な児童館と一緒に遊ぼうよ」というメッセージ発信をあちこちの児童館からき聞こえてくることに大きな期待感が湧いてきます。マニュアルを手にして、私自身も、素晴らしい遊びのプログラムがいっぱいのったデコレーションケーキが届いたような気持ちです。マニュアルを執筆して下さった全国のプログラムアドバイザーのみなさん、実際に試して下さった現場のみなさん、ありがとうございました。そして、全国の児童館・放課後児童クラブの職員のみなさん、このマニュアルを存分にご活用ください。



遊びのプログラムと 子どもの参加・参画

◆ 安部芳絵

工学院大学教育推進機構教職課程科 准教授
厚生労働省社会保障審議会児童部会
放課後児童対策に関する専門委員会 委員
今後の地域の児童館等のあり方検討ワーキンググループ 構成員
厚生労働省委託事業
児童館等における「遊びのプログラム」の開発・普及に係る調査
研究業務 企画委員

児童館は子どもの権利の拠点として、最善の利益、つまり子どもにとって一番よいことを保障する場です。このとき、おとなが勝手に「子どもにとって一番よいこと」を決めるのではなく、子どもの意見を聴いて一緒に考えていくことが大切です。だからこそ、児童館と子ども参加は切っても切り離せないものといえます。

子ども参加支援のモデルとしては、ロジャー・ハートの「参加のはしご」(1992)が有名です。はしごという形状から、上を目指すことが重要だと思われがちですが、そうではありません。ハートはこれらの数字はおとなが「子どもたちのグループが自分たちの選んだどのレベルでも活動できるような状況をつくり出せるようにするためのもの」だといいます。そして、子どもの中には主体的に活動を始めることはしないが、優秀な協力者である者もいるとして、多様な形でのかわりを示唆しています。

さて、「参加のはしご」に触発された子ども参加の実践者・研究者はいろいろなモデルをつくりました。ジョンは「参加の橋づくり」(1996)、ホールダーソンは「参加の輪」(1996)、フランクリンは「参加の11段階」(1999)、ドリスケルは「子ども参加の諸側面」(2002)です。これらはそれぞれ特色があってももしろいのですが、なかでもフランクリンはハートの指摘した「非参加(1あやつり、2お飾り、3形だけ)」を「プレ参加」として位置づけました。このプレ参加は、見方によっては参加の準備段階とも言えます。たとえば児童館の夏祭り、初年度は職員がほとんど決めていたとしても実際に経験した子どもたちが年長になっていくにつれて子どもが提案し、主体的に動く姿を目にすることがあります。

ところで、参画と参加ってどちらがって、児童館ではどちらを目指せばいいのでしょうか。参画は「この指止まれ!」と指を出す子ども、参加は

それに集まる子どもたち、のイメージです。児童館で子ども参画が求められるのは、あらゆる場面で子どもに関わることにについては発言していい/かかわっていいということを示すためであって、発言を強制するためではありません。ですから、参画が素晴らしいと参加はだめ、というものでもありません。

子どもは、遊びを通して参加を体現します。指に止まって遊びはじめ、時に離脱し、また加わることを繰り返します。初めから最後までずーとかわっていなければいけない遊びはもはや遊びではありません。参加という言葉のもつ「スキマ(=あそび)」の要素がここに 있습니다。

そう考えると、児童館職員がまず目指したいのは、遊びを中心とした子どもの参加を大切にしつつ、ふとしたつぶやきを運営や事業全体の子どもの参画へつなげる視点を持つことです。「屋上で遊びたいなあ」「すごい長い流しそうめんやりたい…」そんなひとことから子ども企画が始まることもあるでしょう。施設の運営を見直すきっかけになることもあるかもしれません。児童厚生員の腕の見せ所です。

児童館における子ども参加・参画の種は、子どもの遊びのなかにこそあります。



このマニュアルの 生かし方

◆ 阪野大介

愛知県児童総合センター 主査
厚生労働省委託事業
児童館等における「遊びのプログラム」の開発・普及に係る
調査研究業務 企画委員

毎日さまざまな活動が全国の児童館でおこなわれています。

その中でも、児童館ガイドラインに、児童館に求められている活動として記されている、「遊びによる子どもの育成」「子どもの居場所の提供」「保護者の子育ての支援」「子どもが意見を述べる場の提供」「地域の健全育成の環境づくり」「放課後児童クラブの実施」「配慮を必要とする子どもの対応」を実践するために効果的な遊びのプログラムを選び集められたものが、この「遊びのマニュアル」です。

今回のマニュアル化にともない、全国から20名以上の児童厚生員がプログラムアドバイザーとして、遊びのプログラムを提供してくれました。

これらのプログラムを実践することは「なぜ今この遊びのプログラムをおこなうのか」という点を、それぞれの児童厚生員が再び見つめ直すきっかけになるのではと思います。

なぜなら、ひとつひとつのプログラムにはしっかりとした目的があり、遊びはその目的を達成するための手段というしっかりとした位置づけがあるからです。もちろん遊びそのものを目的としたプログラムの中には含まれています。

これまでに何度も実践され、実績のあるプログラムばかりですが、プログラムアドバイザーのサポートのもと、全国各地の児童館でのトライアルを実施したのち、意見のフィードバックを経て、さらにブラッシュアップされたものとなっています。

遊びのカテゴリを幅広くカバーしていることはもとより、対象者も小学生を中心に乳幼児期の親子や中高生、地域の人々と多岐にわたっているのも特長の一つです。

まずは30を超えるプログラム中から、自分自身が面白そうだと思うもの、興味をわいたもの、実施してみたかったけど良いアイデアが浮かばなかったようなカテゴリのものを1つで選んで実施してみてください。

目的さえしっかりと押さえれば、細かい部分はそれぞれの環境に合わせてアレンジすることも可能ですし、もしかすると実施の過程で別の問題が浮かび上がってくるかもしれません。そんな時は最初の「なぜこの遊びのプログラムを実施するのか？」という部分に立ち返りながら、問題解決の方法を探ってみてください。

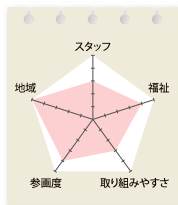
パソコンのオープンソースソフトのように、これらのプログラムが全国で実践され、その過程でかかわった児童厚生員によって改良され、さらに良い遊びのプログラムになることを期待しています。またこれらのプログラムの実践が刺激となり、新しい遊びのプログラム開発のきっかけになればと思います。



36 じどうかん子ども食堂 ～みんなで食べるとおいしいね～

▶ 子どもたちの自立と生きていく力を培う

子どもたちが大人と一緒に食事を作り、その経験を通して自立や生きる力を育むプログラムです。児童館ならではの遊びや学びを通し、生産者や食材に対する感謝の気持ちや物の大切さ、思いやりを持つことができ、また活動を通して地域との交流が生まれます。



ねらい

- 食事を十分に取れなかったり、料理の仕方を知らなかったり、保護者が忙しくて独りで食事をしている子どもたちが大人と一緒に食事を作り、共に食べることで、自立する力を身に付け、みんなで食べる食事の美味しさを知る。
- 余っている食材を有効に利用する「フードドライブ」や、まだ食べられるのに捨てられてしまう「食品ロス」について学び、生産者や作ってくれる人への感謝の気持ち、物の大切さや思いやりを学ぶ。
- 地域・学生ボランティアによる学習支援や遊びの交流を通して子どもたちが経験や知識を得たり、地域が一丸となり、子育て支援を行う体制を築く。

実施条件

対象年齢	0～18歳、すべての利用者
参加する人数の目安	何人でも可
必要なスタッフ数	参加する人数による。 ● 大人子ども合わせて100人以下の場合 スタッフ3名、調理・遊びボランティア合わせて6人～10人くらい。 ● 普段から児童館を利用している子どものみ20人程度の場合 スタッフ3名、調理・遊びボランティア各1人～2人くらい。 ※遊び、学習の内容により人数の増減あり。
設備/環境	キッチン
実施時期	子ども食堂開催の日時については通年可 ※初回は、3か月前から、地域との連携会議、食材集め、ボランティアとの連携などを行う。 ※2回目以降は、1か月前から、開催日の告知、参加者募集、内容決定などを行う。

備品/道具	100人規模で開催したときの備品 ● 調理器具（大鍋50人用×2、一升炊き炊飯器×2、フライパン、水切りザル、ボール大小、食器洗いかご、お玉、菜箸、バット、大皿、トレイなど） ● 食器（取り皿、汁椀、箸、スプーンなど人数分） ● 食材（フードドライブ、寄付、その他の食材費（3,000円/1回）） ● 消耗品（ゴミ袋、キッチンペーパー、紙コップ、台拭き、ふきん、洗剤など）
総予算	約5,000～70,000円（既存の厨房施設にある備品、食器等を借用できる場合は、消耗品と食材のみで開催可能）

事前準備

立ち上げ準備（初回のみ必要な準備）

※開催日の3か月前から準備を開始します。

- 取り組みに至ったプロセス**
 - ・ 食事を含めた生活習慣が気になる子どもたちの存在（偏食や孤食による栄養不足、食べ物を大切にできないなど）
 - ・ 成長期における食事の質の重要性を学ぶ中、子ども食堂イコール貧困対策というイメージを持たせないために、すべての子どもたちが大人と一緒に食を学び、遊び、食べて、成長できる場を作りたいという気持ちからスタート
- 児童館内で打ち合わせを行い、計画書を作成します。**
 - ・ ほかの地域での食堂の実態を調査
 - ・ 地域の子どもの現状と様子
 - ・ 児童館として開催する意味と目的の共有
 - ・ 計画書の作成
- 行政、保健所への相談・届け出をします。**
 - ・ 運営管理者、行政への相談と必要な許可を取る
 - ・ 保健所への届け出が必要な場合は提出をする
※市町村により違うため事前に確認しておく。
- 地域への提案、打ち合わせを行います。**
 - ・ アレルギー事故や食中毒などの対策
 - ・ 参加対象者、定員、運営費、会場、開催回数などに関する問題点の洗い出し
 - ・ 地域への協力依頼（ボランティア、会場設備、光熱費、広報など）。
- 開催日時・会場を決定します。**

- **食材を確保します。**
 - ・市場や食品加工会社などへ協力依頼
 - ・フードバンクからの提供
 - ・地域町会からのフードドライブ
 - ・参加者からのカンパなど
- ※当館では公設市場2社、食肉加工卸1社へ依頼

- **各種ボランティアを集めます。**
 - ・調理ボランティア
 - ・学習支援ボランティア
 - ・遊びボランティア
 - ・音楽ボランティア など

- **参加対象、参加費用、申し込み方法を決定します。**
 - ・参加人数や会場規模により、参加対象者を決定
 - ・運営費を試算して参加費を検討
 - ・アレルギー事故防止や運営責任を明確にするためにチラシを作成し、書面による申し込みを行う
- ※申し込みチラシの例は「実施資料」を参照

当日までの準備（2回目以降から必要な準備）

※開催日の1か月前から準備を開始します。

- **食事メニュー、遊び・学習の内容を検討します。**
 - ・メニューは人数の増減に対応できるものにする
(例：カレーライス、おにぎり、豚汁など)
 - ・子どもたちのアンケートによりメニューを決めてもよい。
また、寄付していただいた食材がある場合は、それをもとにメニューを決める。
 - ・遊びや学習については、調理手伝いから調理完成の間に行うため、
集団遊び・昔遊び・宿題やコンサートなど、三世代が関わる
ことができるもの考える



調理の手伝い
している様子

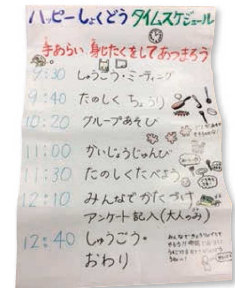
- **開催に向けて必要なグッズを作成、用意します。**
 - 申し込みチラシ、プレスリリース、受付名簿、名札、タイムテーブル、食材依頼書、招待状、カンパ箱、アンケート、エプロン・三角巾、垂れ幕、設営看板など
- **広報・告知活動を行います。**
 - ・新聞社へプレスリリースの送付
 - ・小学校を通して全児童家庭へ申し込みチラシ配布
 - ・町会回覧版での告知
 - ・食材協力者への招待状
- **参加人数を決定し、食材の手配をします。**
 - ・提供者、フードドライブへの手配
 - ・不足食材の購入
 - ・調理担当ボランティアとメニューの打ち合わせ
- **子ども、スタッフ、ボランティアの役割を決定します。**
 - 《子ども》
 - ・制作物担当、調理担当、会場づくり、掃除、片付けなど
 - 《スタッフ、ボランティア》
 - ・遊び担当、学習担当、調理担当、取材の対応、買い物など
- **事前学習として食品ロスやフードドライブについて学びます。**
 - ・スタッフが学んだり、子どもたち自身が調べた内容を日々の児童館活動や開催日に学びあう

進め方

- ① 会場集合・受付を行います
 - ・受付担当が名簿をもとに参加者をチェック
 - ・参加者は名札・エプロン・三角巾を付ける

※事前申し込みのない子どもが来てしまった場合は、当日に保護者の許可を得た上で参加できるようにします。

- ② ミーティングを実施します
 - ・1日の流れと役割を確認



タイムスケジュールの例

③会場を準備します

- ・垂れ幕、机、調理器具、カンパ箱、アンケートを準備

④調理を開始します

- ・調理ボランティアは、会食開始に間に合うスケジュールで事前に調理をスタートしておく
- ・子どもたちは野菜洗いや皮むき、切る、お米研ぎ、調味料を混ぜるなどの簡単な調理を行う。

⑤遊び・学習タイム

- ・調理の待ち時間を使って、集団遊びや学習支援を行う。



三世代での集団遊びの様子



学習の様子

⑥配膳の準備をします

- ・遊びの片づけ後、手洗い、食事用機の設置、取り皿、箸の配置、食事の盛り付けを行う。



会場配置の例

⑦会食を始めます

- ・食材提供者、調理者の紹介
- ・地域代表、開催責任者のあいさつ
- ・大人と子どもは同じテーブルにつき会食を開始



子どもと大人が向かい合って座っている様子

⑧片づけ・清掃を行います

- ・全員で机、食器の片づけ、清掃を行う
- ・厨房や食材の片づけは大人が中心になって行う
- ・手が空いた参加者（大人）にアンケートを記入してもらう

開催後

参加した大人たちに行ったアンケートや、子どもたちからの聞き取り、カンパ、会計帳簿をまとめ、館内で反省会を行い、情報を共有します。その後、開催報告書、食材提供者へのお礼状を作成し、館内に開催写真を掲示します。

ポイント

- 開催地や規模、食事代の有料・無料によって届け出の基準が異なるため、開催前に市町村の保健衛生関連の条例を確認しておきます。また、衛生管理士や調理師の資格保有者をスタッフに入れます。
(例：調理補助、フードドライブや食品ロスの講演、読み聞かせ、学習支援や集団遊びなど)
- 運営に携わるボランティア・支援者との連携、打ち合わせを密に行って、具体的な作業内容を依頼します。
(例：町会ボランティア部会→食事作り、民生委員と一般参加者→遊び相手と配膳)
- タイムテーブル・看板・招待状作りなどの事前準備の手伝いや、受付・会場準備・調理・配膳・片付けなどの当日の役割分担を、子どもたちの参加型にします。
- 地域と連携を取り、信頼関係を深めるようにします。寿台では、地域行事への積極的な参加、館行事への招待、運営委員会などで情報交換を行っています。小規模児童館では、衛生面や設備面で食事提供が難しいケースがありますので、地域施設を利用したり、地域ボランティアの協力を得ることで開催が可能になりました。
- 食事中は子どもたちの日頃の生活の様子を聞くことができる機会であるため、大人と子どもは一緒に食事をして、食事の仕方や食べる量などを見ておきます。
- 配慮が必要な子どもが気兼ねなく来られるように、個別に声をかけるなどします。
- 調理補助や調理の待ち時間に行う遊び、学習などを通して、食事の楽しさ・美味しさだけでなく、経験と知識を持ち帰ることができるようにします。

🍃 ハッピー弁当

フードドライブ活動中に、大人でもご飯が作れず食べられない人がいることを聞き、子どもたちが将来生きていく力を付けるための自立支援を目的としたプログラムです。子どもが「自分で考えて自分の弁当」を作ることで、ソーシャルスキルを高め、自分自身で生活環境を切り開く力を付けることができます。

全く刃物を使わないメニューからスタートして、刃物→火→フライパンと一つ一つステップアップしながら、約2か月に一度の間隔で調理実習を行います。

【調理内容の例】

フォークで卵サンドづくり、一番だしをとって作る味噌汁、子どもがメニューから考えるお弁当づくりなど。最終回はグループに分かれて自分たちで決めたおかずのお弁当を作り、お世話になった人に食べてもらいました。平成28年4月～平成29年3月に実施しました。



調理の様子

🍃 わくわくハッピーワールド

ハッピー弁当の継続活動として、平成29年4月より実施しています。調理を覚えた子どもたちとともに、世界の国を学びながら4回、調理体験を取り入れた活動です。外国籍の子どもが多い地域のため、自分と違う考えや文化の人たちを理解し、差別や偏見をなくし、いじめ防止や人を思いやる気持ちを育てる目的で開催しています。

【活動内容】

国旗あてクイズ、子どもが先生役の中国語講座、ブラジルの方に教わる本場のおやつ作り、興味ある国を調べるわくわくノート作りなど



調べたい国を国旗から選ぶ子どもたち

🍃 さんかくおむすびくらぶ・どうおむすびくらぶ

「子ども食堂」を毎月開催してほしいとの要望から生まれ、児童館、子ども、地域の三者を「三角」に見立てて、おむすびを食事に取り入れた「学習支援+食」の活動です。調理ボランティア、講師を地域ボランティアに依頼し行っています。

平成29年度、松本市では「子どもの未来応援事業」として子どもの居場所づくりの支援をスタートしました。おむすびくらぶは、この交付金を利用し開催しています。

【活動内容】

小学生高学年、中学生に対応した講師付きの学習支援を週1回、小学生全学年対象にした寄り添い型の学習支援を月1回、平成29年4月から行っています。



学習会の様子

🍃 食品ロス、フードドライブ活動

子どもたちの話し合いや出前講座を通して、「食べられること」のありがたさと、今も食べられない人がいることを学びながら、子どもたち自身が考え活動をしています。

フードドライブとは？

家庭の中でも食べられるのに捨てられてしまう食品ロスがあります。食品ロスをなくし、必要な方に届けるため、広く住民に呼びかけて食料を持ち寄る活動のことをいいます。「もったいない」を「ありがとう」を合言葉に活動をしています。松本市としても、この活動に力を入れています。

【活動内容】

- ・平成28年5月より、公設市場との連携で、食べられるけど売れない食材をいただき、利用者の家庭・近隣・おむすびくらぶ・こども食堂で活用しています。
- ・子どもたちが自分の言葉で創作絵本を作成して、こども食堂や夏休みの公民館お話会、保育園での話会、いどう児童館、子どもの居場所づくりシンポジウムなどで読み聞かせをして地域の人も食品ロスについて共有しました。
- ・福祉ひろばにもフードドライブの箱を置いて、地域の方々にも協力してもらっています。届いた食品は、生活困窮者を支える団体への寄付とこども食堂で活用しています。



創作した絵本を読み聞かせている

地域の高校生ボランティアとの連携

子どもたちと関わる仕事を目指す若いボランティア育成のために、市内の高校へのボランティアを依頼しています。実体験を通して、子どもとのコミュニケーションの仕方を学んでもらいながら子どもたちにも年が近い人たちとの遊びを体験してもらいます。コンタクトの無い学校については、まずスポット的なボランティア依頼から始め、また、ボランティア募集ポスターの張り出しを高校に依頼しています。夏休みのボランティア依頼がきっかけとなって、現在、部活動として週1回児童館へ活動に来ている方もいます。

【活動内容】

子ども食堂・ハッピー弁当など行事の補助や普段の児童館での遊びのボランティア

*参考資料1

子ども食堂の内容と参加人数

開催日	開催内容	人数
1回目 H28.3.26	カレー、カレーゲーム(食材カード集め)、 手作りすごろく大会	65名
2回目 H28.6.20	東北の料理、自分の手で握るおにぎり、 松本市出前講座「地産地消と市場」	64名
3回目 H28.8.3	夏休みBBQ大会(リクエスト)、学習支援、縁日	48名
4回目 H28.8.19	ハッピーモーニング食堂 サラダ、ゆで卵、 スープ、トースト、学習支援	31名
5回目 H28.8.27	あんかけ丼とトン汁(リクエスト)、学習支援、 ハーブ体験教室	43名
6回目 H28.11	郷土料理の伝承「おやき教室」	36名
7回目 H29.3.25	春休み企画 カレー、カレーゲーム	55名
8回目 H29.6.24	手巻き寿司(リクエスト)と昔遊び	62名
9回目 H29.8.5	ハッピーモーニング食堂 ご飯、味噌汁、 納豆など和食バイキング、学習支援	19名

安全への配慮

- 食物アレルギー・参加中の事故防止のため、子ども本人からの自己申告だけではなく、保護者には必ず申込書に記載してもらい、承諾を得るようにします。
- 参加中の事故への対策のひとつとして、ボランティア行事用保険に加入します。
- 食中毒防止のため、スタッフならびにメインの調理者は定期的に(2ヶ月に1回)検便、毎回検食を行います。

子どもの主体的な 取り組みの視点



「食べにいくだけ」、「食べさせてもらうだけ」ではなく、準備から片づけまで関わり、何かを学び取る時間にしてもらいます。

事前準備として、食べ物の大切さや作り手への感謝を学んだり、招待状やポスター製作などを子どもたちは行ないます。当日は受付、調理助手、学びとして「学習支援」、また、三世代遊び、集団遊びなどに参加することでコミュニケーションを学ぶことができます。

メニューの一部を自分たちで考えることで自分たちも「主催者の一人」との自覚が生まれ、積極的に参加ができるようになります。

プログラム
アドバイザー

● 寿台児童館(長野県松本市) 竹内亜哉
設案秀子

実際に
やって
みました。

- 参加人数の他に、参加ボランティアの人数の目安があると、イメージが湧きやすいと思います。
- 実施にあたり食材が先か、献立が先かなど、献立の決め方の順を考えました。

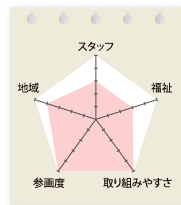


蒲江児童館(大分県佐伯市)・浜岡中央児童館(静岡県御前崎市)

38 防災ダンボールキャンプ

▶ 防災意識を高める遊び体験

災害を知らない子ども・家庭を対象にした、防災意識を高めるためのプログラムです。ダンボールを使ったキャンプという遊び体験を通して、自分で考え、工夫する機会をつくり、「あたりまえ」を「ありがたい・ありがとう」に変えることで、防災に対する意識を高めていきます。



ねらい

- 災害を経験していない子どもたち（家族）が、防災を「他人事」ではなく「自分のこと」としてとらえることができるようにダンボールを使った宿泊体験を実施し、防災について考え・知る機会とする。
- 災害経験者となつながら防災意識が高まる。
- 持ち物の指示を行わず、必要なものを自分（家族）で考えリュックに準備し、キャンプ終了後、必要だと思ったものを荷物に追加し、各家庭の『非常用持ち出し袋』とする。
- 子どもだけでなく、保護者も事業の一部に参加してもらい、災害時を意識し、避難場所の確認や非常時の家族の連絡方法などを再確認する。
- 欲しいものが簡単に手に入る環境、困ったらすぐに大人が手伝ってくれる環境から意図的に離すことで、子ども同士で協力・工夫し、「あたりまえ」を「ありがたい・ありがとう」に変える。
- 今までの体験をつなぎ合わせ、その場に応じた形に応用・工夫することで「成功体験」を得る。また、知識や体験を重視するのではなく、「失敗体験」＝「こうするとうまくいかないという発見体験」を通じ、状況に応じて工夫する力を育む。

実施条件

対象年齢	小学生以上とその家族
参加する人数の目安	親子20組程度（実施場所の広さによる）
必要なスタッフ数	スタッフ2名、地域ボランティア数名
設備/環境	宿泊できる場所（児童館や学校体育館等） ※夜間の安全が守れるところ
実施時期	あまり寒くなりすぎない時期が望ましい
備品/道具	※児童館側で準備するものとしてチラシで周知しておく。また、実際の避難先に、潤沢な物資があるとは限らないため、主催者側が準備できた量を予め子どもたちに伝え、皆で協力し、譲り合って使うことを伝える。 ●ダンボール ●紙製のガムテープ（1グループに対して1つ）

※紙テープは、布テープと違い、上から重ねて貼ることができないため、どのように使うかを考えるきっかけになる

- 新聞紙
- 飲料水（1人につきペットボトル1本）
- 乾パン（全体で1缶）

総予算

約5,000円（場所代・保険代等）

※人件費を除く

※水や非常食などは行政機関の備蓄の入れ替えと連携

事前準備

- チラシを作成し、開催の案内と参加者の募集をします。
- 参加者に対し、宿泊に対応した保険をかけておきます。

チラシには、下記が必須の記載事項となります。

- ・ダンボールハウスをつくり室内で宿泊をする
- ・トイレは使用可能
- ・児童館側で準備するもの一覧
- ・上記一覧に記載されているもの以外は、自分または家族と一緒に必要なものを考え、リュック1つにまとめて持参する

※寒い時期に実施する場合はリュックが1つ以上でも構いません。

※児童館から「〇〇を持って来てください」の指示はしないでください。

なお、持参する内容に正解はありません。

進め方

① 導入（保護者と共に参加）

下記のような質問で家族の防災意識を確認します。

- 「被災した経験のある人は？ ない人は？」
- 「自分の家の避難場所を知っていますか？」
- 「連絡をとれない場合の家族の集合場所は？」

② 『持ってきたものなあに？』（保護者と共に参加）

参加者全員で輪になって座り、各自、持参したものを自分の前に広げます。その際、人に見せたくないものはリュックに入れたままでよいことを伝えます。

↓

自分が持参したもののなかから、おすすめのを一人ずつ発表していきます。

↓



ライターやマッチなど、火が付くものを持ってきている子どもがいる場合は、安全のため、スタッフが帰宅時まで保管します。

⑤『親子防災プログラム』（保護者と共に参加）

≪六甲道児童館実施例≫

●防災ダック（防災教育用カードゲーム）

カードゲームで子どもたちにわかりやすく災害時（地震・火事・洪水・津波等）の対応を伝えます。

※カードは日本損害保険協会にて購入可能

<http://www.sonpo.or.jp/news/publish/education/0008.html>

●あの日の風景 / 現在の風景

阪神淡路大震災時の写真を見せて、それが現在のどこの場所なのか、どのように変わったのかを皆で意見を共有します。また震災を経験しているボランティアスタッフや保護者に当時の様子を話してもらいます。

●新聞紙で作る防災グッズづくり

小学生が考えた新聞スリッパを紹介し、実際に作ってみます。ここではあえて片足分しか作らず、後のダンボールハウスづくりの際にもう片足分を作るよう促します。

●防災パッキング

限られた水や汚れた水で、温かい食事をつくる方法を紹介し、皆でつくり、試食します。



「防災ダック」は未就学児でも参加することができるゲームです



震災時、屋外にはガラスが散乱し、室内から裸足で非難することは難しい状況だったことを伝え、あるもので工夫することを伝えます

④保護者帰宅（これ以降は子どものみで行う）

ダンボールハウスづくりなどの様子はブログやSNSなどで随時投稿し、保護者の皆様が子どもの様子を確認できるようにします。

⑤グループ分け

ダンボールハウスを作る際のグループ分けは、子どもたちに任せます。1人でチャレンジしても構いませんが、他の小学校や異なる学年の子どももいるため、さびしい思いをする子がいないよう、子ども同士で配慮してもらいようにします。

⑥ダンボールハウスづくり

グループごとに、寝泊まりするためのダンボールハウスを子どもだけで作ります。

このとき、スタッフは全体に関する注意事項だけを伝え、教えすぎないようにします。子ども同士がお互いに教えあうことを重視します。なお、ガムテープは1グループに1個までとし、節約・工夫の大切さに子どもたちが気づけるようにします。

注) 子どもたちが、「〇〇を貸してください」、「手伝って」、「教えて」等言いにくくても、予めチラシで告知していた備品以外は渡さず、自ら持ってきたもので対応するよう促します。大人はなるべく口を出さず、子どもたちが自分たちの力で解決できるように導きます。

例) 「ハサミを貸してください」→「児童館で準備しているのは新聞、ダンボール、ガムテープだけだよ」

→使わなくてもできる方法や、持参している子に借りに行くなどの対応を子どもたちに考えさせます。

⑦夜更かしタイム

21時になった時点で消灯する旨を事前に伝えておきます。

消灯以降に起きている場合は、寝ている人の迷惑にならないよう伝えませう各自就寝



ハサミがない子どもたちがダンボールでダンボールを切っている様子



周囲に配慮することが大切であることを学んでいきます

8 起床・非常食準備・片づけ

6:00に起床し、全員で非常食（アルファ米）を準備します。水とお湯、両方のものをひとつずつ準備し、できあがりの時間が片付け終了頃に合うよう調理します（片づけ前に水のを、片づけがまとまってきたころにお湯のを準備）。調理と並行してグループごとに荷物を整理し、ダンボールハウスを解体しまとめます。まとめたダンボールは廃品回収に出します。

9 朝の活動

●非常食試食会

水で作ったごはんとお湯で作ったごはんを参加者がスプーンで一口ずつ試食します。持ち物の中に火をつける道具が入っていなかった人は、水でしか作れませんが、火を分け合えば、全員があたたかいご飯を食べることができます。それを伝えることで、協力・分かち合いの心を考える機会にします。

※児童館側で準備している乾パンは、参加者が非常食を持参していない場合に、ダンボールハウス製作時から自由に食べていいこととしています。ただし、「全体で1缶」なので自然に皆のことを考えるようになります。

●マッチで火をつける

屋外に出てマッチを擦る体験を試みる。

10 フィードバック（保護者と共に参加）

朝、7時に保護者に集合してもらい、親も含めて、全員で昨夜の様子振り返りを行います。物品（発展①参照）などを配布し、家に帰ってからの作業について説明します。

11 振り返り

各自、自宅に戻ってから、今回持参したもの以外で「こんなものがあると役に立つ」と感じたものや「絶対に準備しておくべきもの」などを家族で話し合い、リュックに追加し、非常用持ち出し袋としてすぐに持ち出せる場所に常備しておきます。また、保護者には子どもと話し合ったうえでアンケート用紙に記入し、児童館に提出するよう依頼します。

という思いから、すぐに手や口を出し、成功させてしまいがちですが、本事業において重要なことは、まず、たくさんの「失敗体験」（こうするとうまくいかないという発見体験）をすることです。その上で、周囲との協力や、自身の創意工夫が成功につながることを知ると、それが深い学びになります。したがって、ボランティアスタッフや保護者に対し、子どもを信じて待つことの大切さを事前に周知しておくことが必

要です。

- 地域によっては実施の時期を検討する必要があります。寒いことも経験ではありませんが、体調を崩さない時期にするなどの配慮が必要です。
- 申し込み時に、参加児童のアレルギー保有や疾患など、気になることについて保護者に聞き取りをしておきます。



行政などが準備している備蓄食料は、賞味期限切れにならないように定期的に補充しています。非常食試食会に、賞味期限が迫ったものを活用させてもらえるよう、事前に行政などに掛け合っておきます。また、参加者に非常食を持ち帰らせ、家族にも体験してもらうようにすると、より意義深いものとなります。



自分が直面した課題を自分自身で解決する力をつけてほしいのはすべての保護者の願いです。しかし、マッチが擦れない、缶切りを使えない、紐が結べない、といった子どもが数多く存在しています。したがって、そうしたことを実体験する機会をプログラムの中に組み込んでいくようにします。



あえて制限を強めることで、工夫する力を引き出します。
(例:食べ物を持ってこない、持ち物はリュック1つに入るように持ってくる、各グループにガムテープ1つ、など)



安全面を確保できれば屋外でも実施可能。
(実施時期と不審者侵入防止などの観点も必要)



キャンプ場などを活用し、家族単位で実施することも可能です。



●知識や体験を重視したプログラムが多い傾向にありますが、大切なことはそれらをつなぎ合わせる力です。子どもが成功できるように準備しておくのではなく、子ども自

身が「組み合わせ」、「工夫する」、その余地をあえて残しておくことが大切です。

●大人は、子どもたちに失敗してほしくない

複数回にわたり実施したら、経験者枠をつくり、そこに該当する子どもたちにはグループ構成の際に、あえて異なるグループに分かれて入ってもらうようにします。そうすることで、実体験を踏まえ、工夫する力を発揮しやすくなります。

例) 床が固く眠れなかった子どもが次回は重点的に床を作る、窓際で寒くて眠れなかった子どもが次回は窓から離れてダンボールハウスを設置するなど。

！安全への配慮

- 万一来に備え、救急用品を準備しておきます。
- 万一来に備え、参加者の緊急連絡先を記入した名簿を準備しておきます。
- 衛生上、長期にわたり屋外で保管されていたダンボールや新聞紙は使用しないようにします。
- ダンボールは側面を手を切ることがあるので注意が必要です。
- カッターやハサミを使う場合は、後ろ側に人がいないことを十分に確かめてから行うよう注意を促します。

子どもの主体的な 取り組みの視点



子どもたちの段ボールキャンプの参加に伴い、備品などを家族で考えたりフィードバックしてもらうことで、防災を子どもだけではなく家族全体の意識に広げていく。「できない」「こまった」という子どもたちの発言など、キャンプ実施中に表出してきた子どもたちの困ったことをスタッフやボランティアスタッフが手伝うのではなく、自ら考え仲間と共に協力して解決できるように導いていきます。スタッフやボランティアに課せられた最大の仕事は口や手を出さず、見守ることです。安全に配慮しながらそれをするのは実は最も難しい関わりなのです。

プログラム アドバイザー

- 六甲道児童館（神戸市） 館長 金坂尚人
八木千波
大谷幸子



- 参加メンバーが確定した時点で「保護者説明会」を実施しました。保護者にプログラムの趣旨を事前に理解していただくためには必要なことだと思います。
- 12月に実施したため、風邪をひかない程度に暖房を使用しました。子どもが体調を崩すことを心配する保護者が多かったため、適度な空調は必要だと思います。
- 低学年の子どもが多い場合は、スタッフがスタッフルームと称して見本となるダンボールハウスを作るなど、作り方のヒントを見せるといいと思います。
- 参加者を増やすには、近隣の小学校や役所にチラシを配布したり、ポスターを掲示させてもらおうと思います。
- 今回は無料で実施しましたが、保険料だけは徴収してもよいかも思えません。これには安易なキャンセルを減らす効果もあると思います。



KFJ多摩 すかいぎっず



寿台児童館

KFJ多摩 すかいぎっず（川崎市）・寿台児童館（長野県松本市）